

第8回テーマ 「渡辺論文、第2章を読む(その1)：語用論学者 ポール・グライスは「意味する」をどのように分析し、どのような結論を出したかを読み取る」

演習課題2：「渡辺論文 第2章 第1節 の精読のための課題：その1」

渡辺裕「音楽における意図と意味」の第2章「発話者の意図とその了解」、2-1『『意味』の複合的構造：P. グライスの“Meaning”』の内容について、以下の項目に示した事柄を読み取って、回答できるように準備してください。

(所要時間 30分程度。11時20分になったら、報告・発表・議論のために、必ずmeetを再接続してください)。

●【段落3】p.85 の内容

- 3-1. 渡辺がここで取り上げた論文は、誰のなんというタイトルの論文で、何年に発表されたものか？
- 3-2. その論文は、「何を対象にして」、「何を手掛かりとして」、「何を明らかにしようと試みたもの」であったか？
- 3-3. グライスは“mean”の動詞が使用されるケースを2つに区分したが、それらは、それぞれ、いかなるケースか？
- 3-4. 動詞 mean が使用される2つのケースを説明するにあたって、グライスは、それぞれどのような例を挙げたか？
- 3-5. 上記3-3. で区分した2つのケースを、グライスは、その後違った概念(言葉)で言い換えている。それぞれ何か？
- 3-6. 上記3-5. で挙げられた2つの概念のうち、意図を伴っているのを示すのは、どちらの概念か？
- 3-7. 上記3-5. で挙げられた2つの概念のうち、グライ스가この論文で考察の対象とするのは、どちらの概念の成立条件か？
- 3-8. 3-7. で挙げられた考察の対象となる概念の成立条件を明らかにするために、グライ스가用いた方法は何か？
- 3-9. その他、段落3で読み取るべき大事なことがあれば、指摘してしてください。

●【段落4】p.85 の内容

- 4-1. グライ스가取り上げて考察の対象としたのは、どのようなケースか？
- 4-2. 上記4-1. で挙げられたケースは、何を明らかにしようとしたからか？
- 4-3. 上記4-1. のケースには、Aによる意図が存在する一方、どのような点が特殊であると述べられているか？
- 4-4. 上記4-1. のケースの考察の結果グライ스가主張するのは、意味が成立するための2つの条件だが、それぞれなにか？
- 4-5. その他、段落4で読み取るべき大事なことがあれば、指摘してください。
- 4-6. ところで、グライ스가対象とする4-1. のケースの前提は、そもそも納得できるか？ できないならば、どう考えたら良いか？